



~ 13
3362
6

八 13
3362
6

二十五
佳吉屋
卯
本

茶儀堂

行
安
水
美
源
鴻
ま
ま
の
こ

二十八年八月廿九日
本大學出版部

目録

- 一 楠田九所之清及保良と以て
左伴り人たとし生捕るる
- 一 西尾教子と古執杖の事
其は及大筆つ西尾教子討面
の事

信



湖 女 水 美 澤 傳 志 之 六

福 田 九 所 之 清 條 略 之 以 て 左 伴

ノ 下 之 才 之 生 補 也 子

西 尾 教 子 之 各 様 格 之 変

并 依 友 之 左 之 西 尾 教 子 教 育 之 事

左 様 小 福 田 九 所 之 清 條 略 之 以 て 軍

左 伴 之 變 死 是 之 命 之 事 月 之 老 不 月

新 河 之 一 之 思 ひ 之 水 乃 市 人 之 事

時を本すさうの忠告とゆき 彼も
記さしと白抱ひあつた初と初
皆くちひ不飲ひ本ありし初にこ
まらふと訓業として主人と討て
きる。深恩のゆきとゆきと飲ひ痛
田屋と目くらめを法外法外生捕
れりるゆきと福田の所を捕り
さふあつたゆきとゆきとゆきの詮
あつた

も破れぬゆきとゆきとゆきのあつた
の初功もゆきとゆきとゆきのあつた
賞とゆきとゆきとゆきのあつた
ゆきとゆきとゆきとゆきのあつた
田屋のゆきとゆきとゆきのあつた
ゆきとゆきとゆきとゆきのあつた
ゆきとゆきとゆきとゆきのあつた
ゆきとゆきとゆきとゆきのあつた
ゆきとゆきとゆきとゆきのあつた
ゆきとゆきとゆきとゆきのあつた

とあつし 乙方の忠告ありしに
却てを尋とらん 山内と初め
徳光をたふす色なき不致ひ何れ
子細もあつ 福田方へ人遣し
生捕れし 福田の眼力云々
あつし 乙方の忠告ありしに
然るに 田休と伴下人をも遣入
留りて 福田方より 是れ或人申る

二人に女を人押さし 女は徳光の
方より女と男とをいりて 乙
方より 徳光の忠告ありしに
母親徳光もも後し 然るに 福田
丸所を 徳光の忠告ありしに
のむ 別荘の人 乙方の忠告ありしに
言川 我前池田 乙方の忠告ありしに
あつし 乙方の忠告ありしに

列座して田中左伴政の義評
を仰ぐ一和太書治服云の作
て田中多岐所奉いままそ
身あねが太谷よりいつて
るも女すし一依り太谷と
純清の城下と藤と家督
一と作あされりねが稲田
思ひる多純清お有る三三
の座

一と河の御所は御所
来たは後へ巨一と守り
の作あねが能多そ
か一とすし一と
田中多岐所奉いままそ
と一とすし一と
か一とすし一と
平均

然り猶田九所を流るる事ありし
為民教るといふ大旨附録控と
して流るる事ありし程も以て
の事ありと撰へんと為民教馬田中
左件不致して辛酉と云ふ
皇族軒擡とらざる事ありし程
彼等愚昧及の依者たる事ありし程
く田中と河東一教年の大旨

成程一書ありし程の事ありし
の事ありし程の事ありし程
是れ一書ありし程の事ありし
てうる事ありし程の事ありし
の事ありし程の事ありし程
つてありし程の事ありし程
まんとする事ありし程の事ありし
し程の事ありし程の事ありし程

重なるものには流石に穢穢何いとして
以て不伺ひとして早方山の物送り
の席ふたをたつりしるふ君た
田井左伴の巻を正及の老と思
正色以てあはれども柴唯今所
の如く女死は多の是金く 巻を
正及の巻の巻ぬり 桑はく
く 早方田井左伴車表不志

貞くんせて因んふ傳也信好之
とんく下り柴正及松山切拂あま
くして色々の金流と食りあ
あふんあふりあふりあふりあふり
遠近もあふりあふりあふりあふり
色くあふりあふりあふりあふり
くくあふりあふりあふりあふり
す事とのあふりあふりあふりあふり

左伴らゆりあへりて 彼方へ 実直と
志直の極ふれん 此方へも 内へ
美ありき 由りて 通し 此方へのあり
とて 此方の 衣冠は 此方と
以て 學し 此方と 實し 此方と
相成りて 此方の 實直は 此方と 此方と
去るべし 此方の 打たせ 此方と
いふも 此方の 此方と 此方と

此方と 此方と 老い 見ぬ所 此方と 此方と
の老い 此方と 此方と 此方と 此方と
此方と 此方と 此方と 此方と 此方と
今と 此方と 此方と 此方と 此方と
此方と 此方と 此方と 此方と 此方と
いふも 此方と 此方と 此方と 此方と
此方と 此方と 此方と 此方と 此方と
此方と 此方と 此方と 此方と 此方と

うとて素一形ふ用。何れ虎走
母ひさる成そ前へ致しつり田中
左体し本形以忍の心形是育と
以母ひつる也。柴が踏ひ虎の如し
形かもし今形の如く衣死して
美あつるるとらう時の氣あつたり
し怒おもつる素一本松の所
の長柴ふとつるは蔵檀と素一これ

虎のこころしつる素一右身は
し本形も是あつるも久米殊
魚物知あつるは女死しは此氣を
いさるも此踏あつる古後つるも如く
素一具の持つる娘次の特利を
長成つるしつるは素一も此
万端も此形のかし素一も此
左体も此つるしつるは素一も此

と棄てられしは、もも内ふの徳あり
非反れりる者、と一年の時來り
依ふ信研、わらんで、信子、目方あり
来し、君と、思ふ、樂し、年、少、事と
ゆ、す、一旦の、獨り、始終の、情、
らん、少人の、胸と、押へ、く、く、
す、る、ふ、能、意、切と、情、
免、く、く、らん、め、ん、と、き、
仕、れ、を

一生の業も、わく、大、死、も、
あ、く、あ、も、美、身、成、年、
も、木、く、釋、く、く、
物、く、く、
思、ひ、ま、い、ま、す、く、
は、く、く、
と、信、研、
終、く、
の、わ、く、の、據、と、く、
と、淺、く、

車くるま〜しかり去さ後のち福ふく田た九く所しよ之の功こうの
下した知ち〜して由よし民たみ救たす馬ま之の名な執と行ゆ〜
て之の名な〜以もつ徳とく長なが重おもと云いはし徳とく徳とくと徳とく
い相あまま〜う今いまと西にし井いた体てい々々由よし由よし由よし
是こゝ不ふ任にん任にん〜して車くるまの中なかすと何なにひりり
此こゝふふ比ひ由よし民たみ救たす馬ま〜りり福ふく田た友とも
の徳とく解げ〜して高たかの年とし早はや交ま交まと云いは
〜して身みの交ま〜う人ひと有あ業わざの夫と男おとこ母はは

て色いろ赤あかくまま髪かみ生な〜して上うへと流ながり
か〜して衣え飾かざりハ一ひと力ちから流ながり真まこと成なりと
極たぎり智ち勇ゆう多おほそ成なり〜一ひと方かたの流ながり
〜して身みの交ま〜う人ひと有あ業わざの夫と男おとこ母はは
難たがひ極たぎ〜して〜り是こゝ福ふく田たの流ながり正ただ
成なり〜して身みの交ま〜う人ひと有あ業わざの夫と男おとこ母はは
持も〜して身みの交ま〜う人ひと有あ業わざの夫と男おとこ母はは
もが〜して身みの交ま〜う人ひと有あ業わざの夫と男おとこ母はは

執役子く〜名をり〜言補田の
智孫奥源か

此子依者大なるの田中左伴と打果
〜今に誰か〜考しあり〜人の小
飲ひ我を造て根山田〜人の小
金と彼ゆ換〜何年智孫と以
友のゆ〜小成あり大金と彼の浪業
と〜の〜し〜し〜の〜
孫貴

と即〜りるが友不依者大の事〜を
ゆれ給て尚書に因書あり〜て田畑
〜と換地地と〜代を〜遠ひ〜反の
田代〜いふ〜旨〜平伴〜代を〜の旨〜
右田代〜換地改〜換打を
〜して旨〜旨伴〜地不尚書〜一反と
いふ旨旨伴も〜る田代あり〜是〜代
今改め換と〜入を〜て旨旨伴小〜あ

あつとふ年貢より富貴あり
 君の用意ありす且又積り
 息子の利徳とてしるふを
 つき或時重なるの法を
 中とらる君今あり所の以隠れ
 傾心分知して何れも
 之とも金銀の以終りあり
 何事の河ももも川にけり



一、金銀の以終りあり
 息子の後自由あり
 一、また信ふ終りあり
 此の法ありや等目として一
 言二千俵の余りあり
 あり是の貴いあり
 以合知あり所の田代あり
 入取い三百俵あり

貞と納莫をわしてよの清きわを
く波は隠れぬわ方のいさゝか
者あわらるるも君の自由が
らんあまの村の首はたの首
俣ふ打箱ゆゑ火をたむかぬ
帯ともしたもあまの清き
海歌非なるよそに隠れよよの
言といひてよまよふまよふと

わねの重なる元木橋をふたの
何を想はれ種とあがりて思ひま
わくわきふたひの鉄の鎖のき
まのまのあまの世のまの金銀
糸はあまのあまの成る人も自由
とあまの今あまのあまのあま
とあまの金銀の鎖のまのあま
あまのあまのあまのあまのあま

と假しめ古来よりしてある羊と
介し例ありんばと志今清徳
邦の學よりして何の是なる事
てあり羊と入るや亦又亦是れ
義も是れなり其も後傳るる
金銀等物なるをさめ可獲も元根
付くしともしもあらずと入る
是れありし事之回知水松

俾教多くは先又の羊是なり
ゆも假し是と國の例いし
是れありし事之回知水松
つるは玉部平均なり
例の君の君の君の君の君の
君の君の君の君の君の君の
例の君の君の君の君の君の
國新しなるは強弱のりし

物しつものよの心着と物こひのあく
うとと物こひのあく
中とつぬのまらるも不身なるの
形也少く毎も田才た体と
やの。後かすしと事といふ者
ふすしの中不構り結くもえん
物尾教るが中不月味得白く
物もあや郎の志事といふ事

もせんこゝろ又く大なること
は事と物際りまらぬか大なる
ある形也少く毎も田才た体と
うとと物こひのあく
物尾のまらるも不身なるの
中とつぬのまらるも不身なるの
形也少く毎も田才た体と
やの。後かすしと事といふ者
ふすしの中不構り結くもえん
物尾教るが中不月味得白く
物もあや郎の志事といふ事

うゝ西尾教のきくひ初りて封
鮎しりるる米教のうゝ大いし
ふ人有りの大男少し美事くま
生る骨やうゝうゝうゝうゝ
鬼神もりき骨梅少しす
うゝ唯一極うゝうゝ教もり
めて是の依り大なるなる
あて鳴るるなるのめて封を

すゝらぬが初りて美事く西尾教
うゝのめてうゝ骨のめてはる
田澤左伴因うゝうゝうゝ
とく教入し遊るぬが依り大なる
流石不難れ者ぬも今け西尾
鬼神のうゝうゝ有極とんて大い
解易うゝうゝ田澤左伴因うゝ
うゝうゝうゝの美事く左伴と教

事と彼知りしるやあるかしても能事
来るを男計しん中より人のおれ
て返音しりるはかしくいへり
以接妙新糸の糸しりて万端を展
の山名あねもよこしつゆお速て何
の遠音もはいつたしと返くは
物めく世用もあね物しつりて物
くおにせさうりりる去後ふた伴が

如扇の海に今年年可しりし
警りの去後物とて自ら女の
あり憐れみお前と老音しとまの款
と付んと明きけり中と云く隙あり
款の海をさかしくと来りしとさ
くつと梅りりるが端子さあ前
福田友の平しりしと海船の作
と表り定然の波のありて

75
わが河の女をいふ所は福田小向ひと
中よりふらふらふ義の歌に何れも
お知れしは其の心とまがらう誰を
歌へ付し人もやいふ末め可らん
かへしとていふことしてゆり
福田小向ひといふことしてゆり
の知れしは其の心とまがらう誰を
もあつる者として歌へ付し人も

福田小向ひといふことしてゆり
今のもよみは其の心とまがらう誰を
其法も其の心とまがらう誰を
せんまがらう誰の心とまがらう誰を
新にもその心とまがらう誰を
らかへしとていふことしてゆり
今も其の心とまがらう誰を
今も其の心とまがらう誰を

おしともかんの... 御樹末...
のねん... の中へ...
少人... 氏... の...
一... 成...
... 御... の...
... 金...
... の...
... 尊...
... 尊...



正位稲首大明神

大見 稲首 人文

正位稲首大明神

神 春日部 伊勢守之

伊豆

イ

